

米 国 の SPF 豚 状 況

わたくし達は今まで日本での SPF 豚による集団変換の開発をはかってきたが、この計画を今後さらに進展させるには何に注意を払うべきか、また SPF 豚の利点としてどのようにシステム化すべきか、さらに SPF 豚にかりに欠点があるとすれば、それをどのようにカバーするかなどを調査するため、すでに SPF 豚の開発後 10 年以上経験のある米国を視察してきた。

米国の SPF 豚は、ご承知のようにネブラスカ州のネブラスカ大学を中心にして開発が進められてきたわけで、現在は故ヤング博士との協

住 商 飼 料 畜 産 ㈱

花 岡 秀 昌

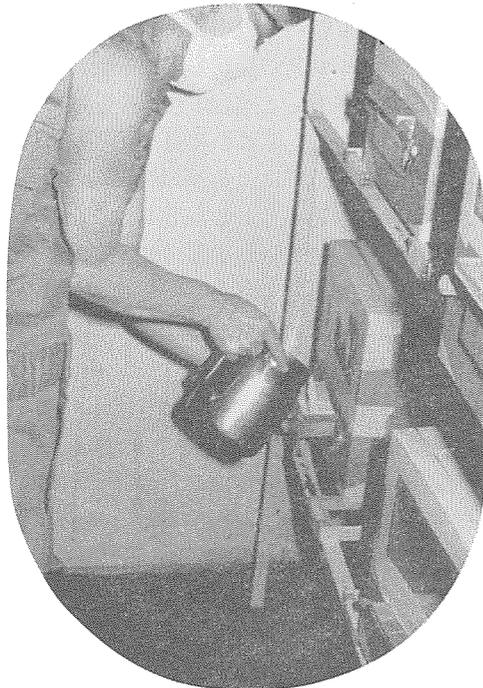
力者アンダーダール博士が中心となっている。まずアンダーダール博士に連絡をとり、大学の案内、各地の SPF 豚農場あるいは SPF 豚関係団体の見学のためいろいろスケジュールをたてていただいた。農林省の波岡博士からアンダーダール博士に紹介状が送られたことも視察がスムーズにできた要因のひとつではないかと思われる。

ネブラスカ州、アイオワ州、インディアナ州などを主体に視察をしたわけだが、今回はその中のネブラスカ大学関係、ワールド農場およびアイオワ州のメリック研究所の三ヶ所について述べてみたい。

ネ ブ ラ ス カ 大 学

ネブラスカ州リンカーンにあるネブラスカ大学はいわゆる総合大学の一つだが、SPF 豚関係はアンダーダール博士らの所属する Veterinary Science Section で実施されている。

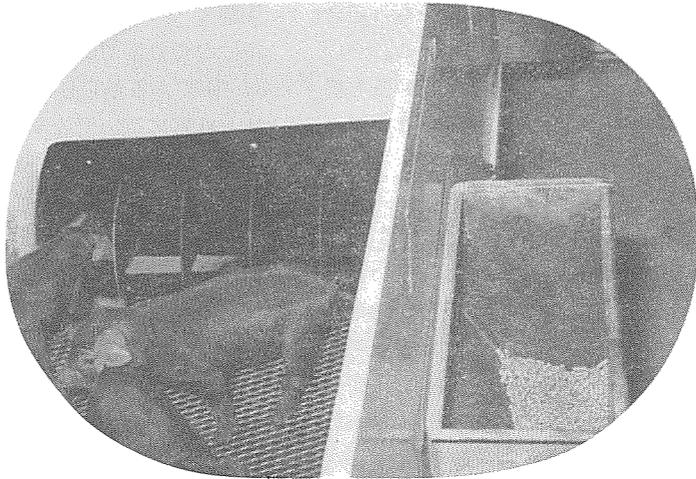
ネブラスカ SPF 豚協会もこの中に設置されており、ここでは SPF 豚農場のチェックおよび認定あるいは SPF 豚の普及など、州における SPF 豚のすべての中心になっている。



写 真 1

子宮切断後ダンボールのアイソレーターで人工哺育されている

写真 2
二週齢の Primary SPF 豚。
オープンペンで飼育され、そろそろ
人工乳ペレットによる離乳



ネブラスカ州全体では現在 500 万頭位の豚が飼育されており、そのうち SPF 豚（原種豚など）は約 5% で（はっきり数字はわからず）認定の方法は非常に厳格で 140 日齢に行なうのが一つの基準になっている。すなわちこの日齢でオスが 170 ポンド以上、メスが 150 ポンド以上の体重と、その時点での背脂肪がオスが 1.1 インチ以下、メスは 1.3 インチ以下でなければならぬとされ、12 頭単位のと殺時における AR および SEP の検査は大学の職員が中心になって確実に実施している。

しかしこれらの SPF 豚のチェックと認定は原種豚農場がほとんどで、コマーシャル豚はチェックを行なっていない。

わたたくし達は大学の案内で訪問の最初の日にたまたま SPF 農場から Hormel というミートパッカーに出された豚のと体検査を視察した。

Dr. アンダーダールをはじめ、その他の大学のスタッフがと体の検査を行なっているが、それはおもに肺と鼻における、AR および SEP の確認である。このほかに政府の検査官も彼らなりの、すなわち日本のと場と同じような検査を行なっていた。

ここまでやれば確かにチェックは確実で、したがって登録認定されている農場はほとんどの病気もなく大半の豚が上記の成績以上になっている。

ワールド牧場

つぎに訪問したところはワールド牧場であるが、ここでは現在飼育している SPF 豚の種類はデロック種がおもなものであった。ここでは現在 SPF 豚を 2,000 頭飼育しており、これらはネブラスカの SPF 豚協会で定められている基準によって増殖が行なわれていた。

場主であるワールド氏からこれらのデータを一部見せていただいた。すなわち、現在飼育しているデロック種の Secondary SPF 豚では 140 日齢で第 1 回目の検定を行なっていたが、140 日齢で体重が Gilt で 150 ポンド (68.2 kg) 以上なくてはならないことになっている。また Boar で 170 ポンド (77.3kg) 以上でなくてはならない。

さらにこれらの背脂肪は Gilt で 1.1 インチ以下、Boar では 1.3 インチ以下という基準である。

しかし一般にこの豚はこれらの基準をはるかにしのぐ成績で、Gilt で 199 ポンド (90.4 キロ)、背脂肪では 0.9 インチ (2.2 センチ) のものも有り、Boar も Gilt と同様、200 ポンド以上の体重で 1 インチ前後の背脂肪のものはざらである。

このように現在では基準をはるかに上回る成

績が得られているので基準そのものをもっときつくしているのが現状のようである。これらのうち150日齢で肉豚として出荷されているものは、200ポンド(約90キロ)から220ポンド(約100キロ)である。

またワールド牧場でみたイギリスとかメキシコからの手紙では、現在これらの国では今後SPF豚でなくては輸入の認可がおりないといわれ、Conventional豚の輸入が認可されなくなったということだった。このことはそれぞれの国が豚の病気について神経をとがらし、病気の無い状態で多頭飼育することに重点がおかれていることを物語っている。

その反面、後進国は病気の治療に振り回されているのが現状であるために、品種の改良でも一向に成果があがらず、いつまでも悪循環をつづけ進歩がないのではないかと深く考えさせられた。

日本でも今後輸入される豚については、病気の無いSPF豚を輸入させ病気に対するチェックを重点におきながら品種の改良を進めなければならぬのではないかと。

アメリカでも豚の品評会などがあるようだが、これらは病気の導入の恐れがあるので概して活発には行なわれずConventional Swineのそれが主体で行なわれているのが現状である。

この農場では種豚は放牧を主体にし、また分娩は無看護分娩が行なわれていた。産子数は

1腹で11頭~13頭平均で、8週齢で8~11頭位の育成率である。無看護分娩でも育成率は84%であるから日本のように看護分娩であれば100%に近い育成率が得られて当然といえよう。しかし現実にはそうはっていない。アメリカで無看護分娩が行なわれている理由として人不足がまずあげられよう。

現在ネブラスカ州では病豚が少ない。日本のように豚に病気の多い国はまずないといってさしつかえなかろう。しかしそのネブラスカでさえこのようなSPF豚を飼育されている現状からみれば日本のように病気だらけの状態をSPF化すればConventional豚との比較がはっきりするのはきわめて明らかであろう。

このようなことを考えながらつづいてアイオアのSPF農場や検査場を見てきた。

アイオア州も大学にSPF豚関係の機関があり州としても協会、研究所があるようだが、その規模はネブラスカ州ほどではなく一部地区的に民間によって推進されている。

その中心になっているマニラのメリック研究所を訪問した。ここではプライマリーの生産所をもっており各SPF豚農場にプライマリーを生産販売している。ここでは月に4~5回子宮切断を行ないSPF豚を飼育している。所長が獣医師で町の開業獣医師であると同時にSPF豚の生産を行なっているわけである。ここでは前



写真 3
場 典型的なネブラスカ州のSPF豚農場

述のような SPF かどうかのチェックは行なわれておらず、病気をなくして豚の成長を早めるという実際的な目的を理解した農場が SPF 豚を導入しそれを飼育普及している。

ここで今までにのべてきたネブラスカおよびアイオワにおける SPF 豚農場の状況について各項目ごとに概略をのべてみよう。

衛生問題

SPF 豚農場であるというからにはかなり衛生的であろうと予想していたが、見た感じではそうでもなかった。

消毒は広い運動場を使用しているのでこれ自体を消毒することはなく、ときどき運動場を変更させている様子であった。豚舎などには日本と同じようにアルカリ系統の消毒剤を使用している。

しかし SPF 農場における管理規制の基本は守られており、たとえば各農場へ見学に行っても必ずはき物をとりかえさせられることやまた、ワールド農場ではさらに厳重で豚舎の中には絶対入れず分娩舎などは小さな窓からちょっと見学させるといった具合だった。

このように病原菌の持ち込みという点についてはきわめて厳重に注意しているようである。

また SPF 農場のなかにはほかの動物に対しても考えており鶏の同居はまったくされていない反面、犬、猫は飼育されている。しかし、これとてもなるべくなら、いないにこしたことはないとはアンダーダール博士の言であった。

飼料

ネブラスカなどはベルトコーン地帯でもありほとんどの養豚家がコーン畑を持っている。したがってこれを砕いてビタミン、ミネラル、そうこう類を飼料会社が指導する配合割合で自家

配合するケースが多いようであった。またスターターなどは飼料会社から買って使用している。

ただ日本で想像していたことと大きくくい違っていたのは、たとえばわれわれの SPF 豚の場合、熱処理したペレットで大腸菌陰性のものを使用しているが、アメリカではそうでもなく一般農場ではペレットばかりでなくマッシュも使っており飼料の取り扱いはかならずしも厳重ではない。

普通飼料の取り扱いも倉庫に入れ、さらに消毒することはない。プライマリーの4～5週齢の飼料は若干取り扱いが慎重のようであった。大腸菌などの問題でもアンダーダール博士などは余り問題にしていなかった。しかしペレットならば大丈夫ではないかとのことであった。

品 種

デロック、ハンプシャー、大ヨークシャーがほとんどで、なかでもハンプシャー種は多いがランドレース種は全然見られなかった。

肉 質

前にものべたようにネブラスカ州の場合には SPF 豚の認定のための条件として背脂肪の厚さを入れ、事実 SPF 豚は正常な管理のもとでは背脂肪の厚さがうすくこの点で市場で実際に評価されているようであった。

SPF 豚の発育

まえにものべた SPF 豚の日齢と増体の条件があるが、これらの基準をほとんどの豚が上回っており、5～5.5ヵ月齢で200～220ポンドで、たとえばワールド牧場では25頭中2～3頭が基準以下であった。これらは管理の方法によっても差がでてくると思われた。

※

※

※